

# Q & A



稲田宗総代

## Q1 稲田宗総代（八雲）

農業振興支援事業について、営農地を荒廃させず農業振興し続けていくためにも、有害鳥獣対策への対応を農業振興支援策として盛り込んでいただきたい。

## A1 福田尚夫営農対策部長（本店）

農業振興支援事業1億5千万円の枠に対し、有害鳥獣対策の枠組みは厳しいため、農政会議とも協議し県行政へ対して手厚い支援を依頼するかたちで対応させていただきます。



永江りえ総代

## Q2 永江りえ総代（宍道）

10月には肥料が値上がりすることや、米にはカメムシ、野菜にはナメクジといった病害虫被害、酷暑による高温障害などに対して、JAからの支援を引き続きお願いしたい。繁殖和牛は1年1産であり、種がつかないことには売り上げにつながらない。また、高温障害により種がつかないこともあるため、農業者への寄り添った支援をお願いする。

## A2 石川組合長

JAとしての精一杯の支援をしていきたいと考えている。しかし、農林中金からの配当がなくなり、厳しい状況もご理解いただきたい。一方でしっかり改革することが必要であると考えている。

## 鳥屋尾英紀経済部長（本店）

令和6年の秋肥については、6.4%値上がりとなります。令和3年から比較すると、120%程度値上がりしているのが現状です。人件費、燃料費、物流コストといった製造コストが上がったことが要因であり、銘柄を出来る限りしぼり、全農がメーカーと交渉し、出来る限り値段が下がるように努めています。現在は、対応できる新たな支援策が現状ないため、本日いただいたご意見を持ち帰り検討させていただきます。



青山嘉夫総代

## Q3 青山嘉夫総代（川津）

集落組織化支援について、どのような行程・支援があるのか教えて欲しい。

## Q4 青山嘉夫総代（川津）

産直生産履歴システムについて、エラー表示が多く、本来の役割を果たしていないように思う。改善も進んでいないように感じるが、このことについて回答を求めます。

## A3 福田尚夫営農対策部長（本店）

地区本部営農担当部署が窓口となり、本店と情報共有し、行政とも連携しチームで支援しています。特にTACの役割として、地域の意向を汲み、協議を重ね、意向に沿った形態での集落営農組織設立支援をしています。

## A4 中村隆副本部長（くにびき地区本部）

県下統一のシステムであり、エラーが多いことも把握している。本店担当課とも協議し改修を図っているが、産直出荷者の皆さまには迷惑をおかけし申し訳なく思っている。改修に努めてまいりますのでご理解願いたい。



高木勇総代

## Q5 高木勇総代（宍道）

自動車共済の対応について、田植えを終えたばかりの自分の圃場に車が入る事故があった。被害者としてJA担当者の対応を受けたが、苗の補植や生育の差を心配する被害者に対して配慮が無く感じた。被害者・加害者ともに寄り添った対応となるよう要望する。

## A5 石川組合長

不親切な対応について、組合長としてお詫びを申し上げます。事故の際に一番頼りになるのは、JAの担当者が現場に駆け付けきちんとした対応をすることである。

## 越野本部

今回の対応についてお詫びを申し上げます。実態については改めて確認する。寄り添う姿勢で組合員・利用者の皆さまと向き合い、対応することが必要であると思っております。

## 野津隆統括支店長（くにびき地区本部）

今回の対応についてお詫びを申し上げます。事故の対応を含めて、組合員に寄り添った対応を行うよう、職員教育を徹底します。

### 【本件について】

令和6年6月19日に総代の皆さまへお詫び文を發出しています。（以下、内容抜粋）事故対応の流れにつきましては、くにびき地区本部職員が受付・現場急行を行い、以降はJA共済連職員が対応する事故査定体制となっております。田植えを終えられたばかりの圃場に車が入ったことによる、苗の補植の心配や生育に差が出ることの懸念に対し、JA共済連職員が淡々と事務的な対応をとり、組合員の皆さまに寄り添う姿勢が欠けていた点について深く反省しております。農家組合員の方々に対する思いやりが感じられない対応となってしまったこと、大変申し訳なく存じます。今回のご意見を真摯に受け止め、以下の改善策を講じます。

1. 組合員に寄り添う意識を醸成する職員教育の徹底
2. 農家組合員の方々へ被害を受けた際の迅速な連絡体系の確立

今後とも、皆さまの信頼に応えられるよう、誠心誠意努力してまいりますので、JA共済に何卒ご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。